2011年度 学習院大学・学習院女子大学 中欧国際協力研修──独立20周年諸国研修── 実施報告

2011年8月23日～9月10日、今年で5度目となる中欧国際協力研修（昨年度の名称はクロアチア・マケドニア・オーストリア国際協力研修）が、新たにセルビア、モルドヴァでの研修も加えた上で実施されました。研修参加者の専門分野も年々、広がりを見せており、学習院女子大学の1～4年生の他、学習院大学文学部から今年は初めて史学科の学生も参加しましたが、皆、協力し合って積極的に活動しました。ソ連が崩壊し、ユーゴスラヴィア解体の過程が始まった1991年には数多くの小国が独立しましたが、ちょうど20年が経過した今年、そのうちクロアチア、マケドニア、モルドヴァを自分たちの目でしっかりと見ることができたということになります。研修参加者自身も1991年生まれが過半数を占めましたが、1年生から4年生まで幅広く参加したため、平均年齢はまさに20歳ということになり、自分の人生とほぼ同じ期間、独立国家として歩んだ国々を訪れるという、貴重な研修となりました。とりわけ、ベオグラード滞在中の9月1日に、また、機中泊の帰国便にてロシア上空で9月10日に20歳を迎えた2年生の二人にとっては一生忘れられない研修となったことでしょう。

事前研修は学内で4月上旬より現地出発直前の8月中旬まで合計60時間程度、自主的に行われましたが、外務省のODA出前講座、ザグレブ大学卒業生によるクロアチア語の勉強会、モルドヴァ復興支援協会による報告会も含まれており、中身の濃いものとなりました。

研修開始以来5年目となったクロアチアにおいては、日本大使館にて昨夏同様に田村大使よりクロアチア情勢に関するお話を伺いましたが、今回は齋藤書記官が補って下さいました。ザグレブ大学や民間の語学学校で日本語を学んでいる学生さんたちとの交流会も大いに盛り上がりました。難民センターではコソヴォからの難民が流入し、居住者が大幅に増えていましたが、多彩な文化交流による支援活動では、震災を乗り越えて前向きに歩むという気持ちを込めて「上を向いて歩こう」を今年は初めて歌いました。昨年度以前は訪れる機会のなかったカルロヴァッツ市郊外では破壊された家屋や戦闘機などを多数、目にして、戦争の傷跡を改めて痛感しました。

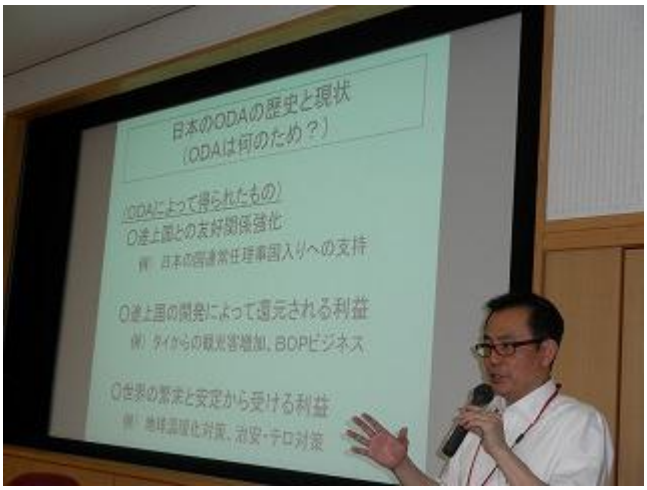
昨年度から本研修に組み入れられたマケドニアでは、日本救援行動センターの松元事務局長よりバルカン地域及び世界のその他の地域におけるNGOの活動について、香寿レシュニコフスカ日本名誉総領事よりマケドニア情勢について貴重なお話を伺いました。オフリドに通じる川を挟んで東側はアルバニア人、西側はマケドニア人が居住し、民族のわだかまりが残っているストゥルガ市では今年も民族融和・環境保護のための清掃のワークショップを地元の小学生と共に行いました。炎天下であったため、汗をふくためのタオルは必需品でした。マケドニア人のスタッフのご配慮により、今回はヘラクレア遺跡、クラトヴォ集落などの文化遺産も見学しました。独立20周年式典を直前にして、首都スコピエの中心の広場にはアレクサンダー大王の銅像が建てられていました。

続いてバスで北上し、引率教員も初めて訪れるセルビアに入国し、ベオグラードに2泊しました。角崎大使のご高配により、由緒ある美しい大使公邸を表敬訪問させていただくことができました。また、セルビアのみならずマケドニア、アルバニア、モンテネグロ、ボスニア・ヘルツェゴヴィナ、コソヴォにおいても支援を行っているJICAバルカン事務所では黒澤所長を始め、所員の斎藤さんと山田さんのブリーフィングを拝聴しました。さらにベオグラード大学日本語学科では山崎先生を始めとする先生方や学生さんたちが温かく迎えて下さいました。「草の根・人間の安全保障」のスキームで日本が器材を支援した、市内の「ボシュコ・ブハ」小学校には日本大使館の阿部書記官が案内して下さり、支援がどれだけ感謝されているのかを知ることができました。

その後、研修参加者はウクライナとルーマニアに挟まれた小国モルドヴァに足を踏み入れました。国内中部のカザネシュティ村の農家に宿泊し、上下水道のない、家畜や野菜、果物で一杯の農村での生活を体験しました。同村の小学校の中に機能しているデイケアセンターは日本の民間支援団体であるモルドヴァ復興支援協会が設置したものですが、こちらも訪問しました。センターには親が遠く離れた国外に出稼ぎに行ってしまい、寂しい思いをしている子供たちと交流しました。日本の若者が10人以上も訪れて日本文化紹介の多彩なワークショップを行ったのは初めてのことでしたが、子供たちは目を輝かせ、心から喜んでもらうことができました。

最後に滞在したウィーンでは毎年恒例のウィーン国際センターを見学しましたが、国連の他、特に今回はIAEA（国際原子力機関）の展示には注目しました。さらに今年初めて在オーストリア日本大使館を表敬訪問し、岩谷大使と市原書記官による貴重なブリーフィングを賜りました。関係者の方々には厚く御礼申し上げます。

6/27 外務省国際協力局国別開発協力第三課綱掛太秀課長補佐が ODA 出前講座の講師として講義をして下さる



本研修参加者のみならず、地域研究基礎論 I 履修者も受講し、日本の ODA について幅広く学ぶ

中・東欧における ODA の現状にも触れられ、研修参加者にとって貴重な事前研修の一つともなる

6/28　モラナさんとの第 1 回クロアチア語勉強会

昨年度の研修参加者で今春卒業した英語コミュニケーション学科の学生もお仕事の後、自主的に参加

7/7　前月にルーマニア留学を終えて帰国したモルドヴァ復興支援協会の川村さんが事前研修に参加して下さる

7/18　モラナさんとの第 2 回クロアチア語勉強会。クロアチアの遊びも教えて下さる。昨年度の研修参加者も

8/4　モルドヴァ復興支援協会の報告会。互敬会館ではピアノ演奏と写真展・原画展、ダンスの公演も

8/12　研修メンバーのオリジナルのデザインによる素敵なタオルが配布され、研修意欲もさらに高まる

8/12 本学卒業生の中山さん（JTB）による最終説明会

8/23 成田空港にていよいよ出発（中山さんのお見送り）

ウィーンにてザグレブ行の便に乗り換え

ザグレブ到着（クロアチア国旗の下で）

クロアチア名物のネクタイ専門店にて

ザグレブ市内のセルビア正教会にて

今年度初めて訪れたクロアチア歴史博物館

旧市街の聖マルコ教会の前で

8/24　在クロアチア日本大使館にて田村大使と齋藤書記官のブリーフィングを拝聴

在クロアチア日本大使館の建物の前で

ザグレブで日本語を学んでいる学生たちとの交流会にて

日本語や英語、また、クロアチア語で話がはずむ

8/25　ザグレブ在住約 40 年の万寿美さんに案内していただいてマラ・ゴリツァ村の難民センターへ

難民の子供たちとのご挨拶。「証城寺の狸囃子」を歌って迎えてくれる

昨年度にも見かけた子供たち

コソヴォなどからの新しい難民の子供たちも

日本文化交流のワークショップ開始。世界各国が支援してくれたことへの感謝の言葉と共に 3 月の震災を紹介

1 人 1 人がクロアチア語で自己紹介

1 月（正月）の紹介

2 月（節分）の紹介

3 月（ひな祭り）の紹介

4 月（お花見と入学式）の紹介

5 月（子供の日）の紹介

6 月（水無月）の紹介

7 月（七夕）の紹介

8 月（お盆）の紹介

9 月（敬老の日）の紹介

10 月（体育の日）の紹介

11 月（七五三）の紹介

12 月（大晦日）の紹介

フルートとリコーダーの伴奏により皆で「上を向いて歩こう」を英語版で斉唱

書道の紹介

華道の紹介

折り紙と切り絵の紹介

押し花の紹介

玉ねぎのハンカチ染めの紹介

浴衣の紹介

セーラー服の紹介

剣道の紹介

万寿美さんが補足説明して下さる

剣道の型の披露

マルマルモリモリの踊り

書道に子供たちは興味津々

今年初めて持参したセーラー服を着せてあげる

自分の名前をカタカナで

男の子もお母さんと一緒に華道にチャレンジ

アナマリアちゃんと一緒に

他の子もセーラー服を着たがる

ペットボトルを半分に切ったものにスポンジを据えて花をいける

哺乳瓶の必要な小さな子も好奇心いっぱい

折り紙を教えてあげる

男の子も自分の名前を書いてもらって喜ぶ

難民センターの礼拝所兼集会所はひと時の間、活気にあふれる

大人も折り紙に惹かれる

8/26　世界遺産プリトヴィツェ湖群国立公園にて

カルロヴァッツ郊外の街道沿いの民家に今も残る銃弾の跡

大きく破壊された建物

ほぼ全壊した飛行機

マケドニアの首都スコピエの国際空港に到着

モスクの尖塔が点在するスコピエ市内

8/27　ホテル・コンティネンタルにて日本救援行動センターの松元事務局長よりブリーフィング

スコピエのバザールにて

聖キリルとメトディウスの銅像の前で

昨夏には見られなかったアレクサンダー大王の巨大な銅像。9 月 8 日の独立 20 周年記念式典の準備が進む

マザー・テレサの銅像の前で

マザー・テレサ記念館にて

在スコピエ日本名誉総領事館にて香寿レシュニコフスカ名誉総領事によるブリーフィング

マケドニア最西端のライツィツァにある聖ゲオルギ修道院にて

シャツと長いスカートをお借りして教会を参観

アルバニア国境近くのヴェヴチャニ村で民族舞踊の実演を鑑賞

マケドニアの美しい民族衣装を着た若者たちと研修メンバー

8/28　ヴェヴチャニ村の民宿の朝

日曜日の屋外での礼拝の見学

アルバニア系住民が過半数を占めるストゥルガ市へ

川の向こう側はアルバニア人居住区

アルバニア人の居住する側ではアルバニアやコソヴォの国旗や T シャツばかりが売られている

聖パンテレイモン教会にて

ボートから眺めた世界遺産オフリドの文化景観

オフリド湖南東部に面する聖ナウム修道院。背後のホテルに 1 泊

8/29 ワークショップの前に日本救援行動センターより頂戴した T シャツ　From People of Japan と記されている

日本救援行動センターの英文名称　　Japan-Macedonian Cooperation と記され、両国の国旗がデザインされている

地元のマケドニア系の小学校の生徒たちと共に、民族融和の清掃のワークショップ開始

軍手をはめて本格的に活動

マケドニア部分でガイドをして下さったクリスティーナさん（左手前）も参加

粗大ゴミも散見される

ゴミ袋も瞬く間に一杯になる

炎天下で消耗

マケドニア人の小学生と一緒に

ゴミ袋がいくつも一杯になる

一仕事を終えた後の学習院のメンバー

アレクサンダー大王の父、フィリッポス 2 世が築いたヘラクレアの遺跡

モザイク画

マケドニア北部のクマノヴォ市にあるユーロ大学で、ホームステイ先となる学生とのご挨拶

8/30 世界遺産新規登録候補となっているコキノ巨石天文台遺跡の頂上にて遺跡を発見した考古学者を囲んで

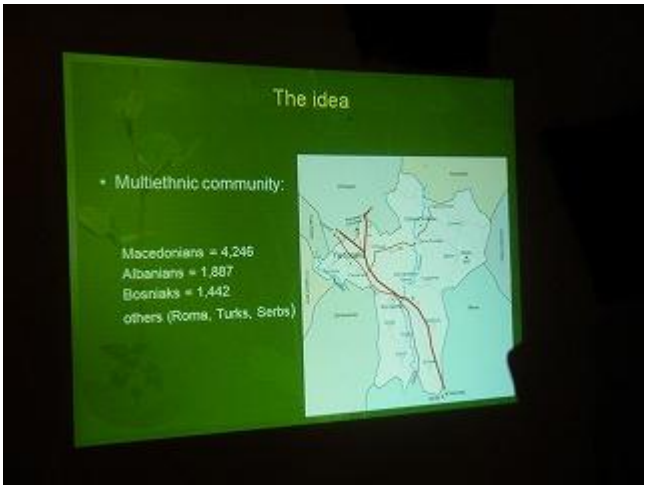
岩の形によって太陽と月の動きが観測可能となっている

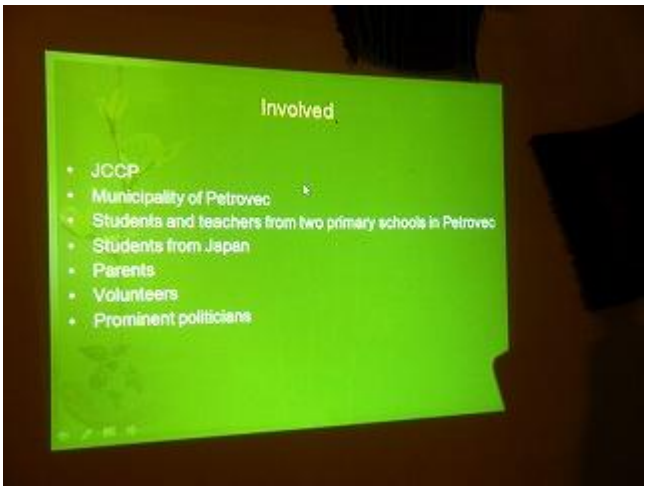
マケドニア北東部の古いクラトヴォの集落

ククリツァ村のストーン・ドールズの前で

マケドニアの田舎で見られる多数の牛

日本紛争予防センターのゴランさんによる植林活動の説明





引き続き、日本紛争予防センターの末藤さんによるブリーフィング

JCCP団体概要

- 沿革
  - 1999年創設
  - 2010年7月に特定非営利活動法人として認定を受ける
- 人員（2011年3月1日現在）
  - 専従スタッフ2名
  - 非専従スタッフ17名
- 海外事業地
  - ケニア：スラムでの子供や女性への心のケア支援
  - ソマリア：ソマリア治安改善プロジェクト
  - 南スーダン：スラムの若者のライフスキル向上支援・ストリートチルドレンへのシェルター提供
  - バルカン地域：小学生の共同植林事業

JCCP

JCCP団体概要

- ビジョン：
  武力紛争により人々の生命・自由・機会が無条件に脅かされる状況を改善し、傷ついた社会に長期的な平和を築くことによって紛争の発生・再発を防ぐための活動を行う
- ミッション：
  紛争による被害を受けた人々が、自らの社会に平和を築く担い手となるよう人々の能力強化に重点を置いた事業を行う
  - 現地支援
  - 人材育成
  - 啓発活動
  - 調査研究
  - 政策提言

「生きる選択肢を、紛争地の人々へ。」

JCCP

マケドニア

- 面積：九州の約3分の2
- 人口：206万人（2009年）
- 民族構成：マケドニア人66.5%、アルバニア人25.1%、トルコ人3.5%、ロマ人1.9%、セルビア人1.8%、その他2.2%（2002年）
- 旧ユーゴスラビア
  「七つの国境、六つの共和国、五つの民族、四つの言語、三つの宗教、二つの文字、一つの国家」

- http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/macedonia/index.html

JCCP2011年事業目標

- 事業目標：
  マケドニア共和国中央部ベトロバツ郡において、マケドニア、アルバニア、ボスニア、セルビア、ロマ、トルコ系等の異なる民族間の交流を促進し、相互理解・共存意識を向上し、民族間の緊張を緩和することを目的とする。

JCCP

JCCP2011年事業概要

- 事業概要
  - 対象：本校2校、分校5校の計7校、1120名の小学生とその父兄の計3000人超
  - 期間／頻度：2011年1月から11月、週に1回
  - 活動内容：（1）共同植林作業（2）ワークショップ

JCCP

JCCP2011年事業概要

- 共同作業に植林活動を選んだ理由
  1. 植林はマケドニアが国際支援を受けて取り組んでいる事業である
  2. ベトロバツ郡における植林活動への参加者の学校からの高いやる
  3. 森の再生実現までに10年間を要するため、長期的な持続可能な事業となりやすい
  4. 民族を越えた国民としての一体感を共有する事業として、植林事業をとらないとベトロバツ郡から希望があった
- 期待される効果
  1. 民族融和の促進
  2. ベトロバツ郡の緑化
  3. 地域住民への波及的効果
  4. 教員間ワーキンググループ／学校間ネットワークの形成

JCCP

成果と課題

＜成果＞

- 小学生約740人と29回の植林活動、ワークショップ、清掃活動を実施
- 約280人の小学生が2000株の苗木を植林
- 約2.5ヘクタールの緑化
- 7校のうちの3校で共同清掃活動を実施
- 平和構築指標調査の実施（90人を対象に対面調査アンケートを実施）

＜課題＞

- 父兄の参加呼びかけ
- 植林活動の実施

8/31　マケドニア教育科学省にてパンチェ・クラレフ大臣と一緒に。右端は日本救援行動センターのミランさん

大臣の誕生日だったためお祝いの大きなケーキを皆で食べる

マケドニアの最高学府、スコピエの「聖キリル・メトディウス」大学にて歴史学の教授のマケドニア史の講義

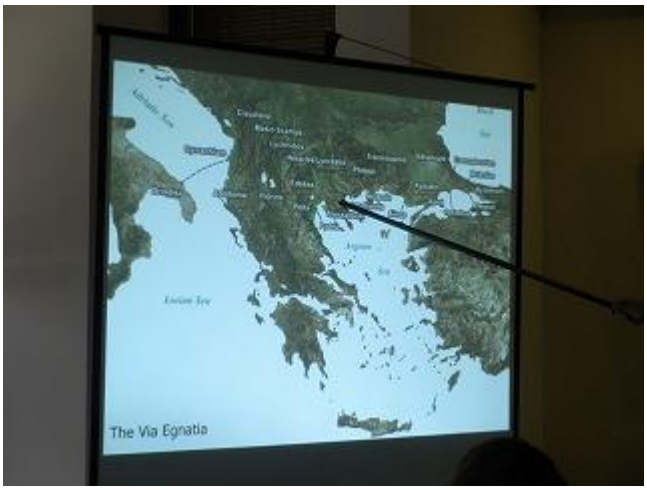
ペロポネソス戦争時のマケドニア

フィリッポス王の亡くなる時代のマケドニア

アレクサンダー大王時代のマケドニア

紀元前 200 年のマケドニア

ローマ帝国支配下のマケドニア



エーゲ海とアドリア海を結ぶ街道に位置していたマケドニア

スコピエ大学哲学部の玄関ホールにて

哲学部長主催の会食

聖キリルとメトディウスの像の前で学部長を囲んで

哲学部長（左から一人目）に案内されて学長室へ。学長（左から 2 人目）とのご挨拶。

マケドニア出国

セルビア入国

係官がパスポートを回収

ベオグラードに到着

9/1　市内に日本が支援した黄色のバスを見かける

日本大使公邸へ

角崎大使によるブリーフィング

冷たい飲み物とどら焼きを御馳走になる

戦前からの由緒ある美しい大使公邸の建物の前で角崎大使を囲んで

ベオグラード大学日本語学科で山崎先生を始めとする日本語学科の先生方の自己紹介

日本語学科の学生さんたちとの交流

クロアチアから流れてきたサヴァ川とドナウ川が合流する地点で

カレメグダン要塞を歩く

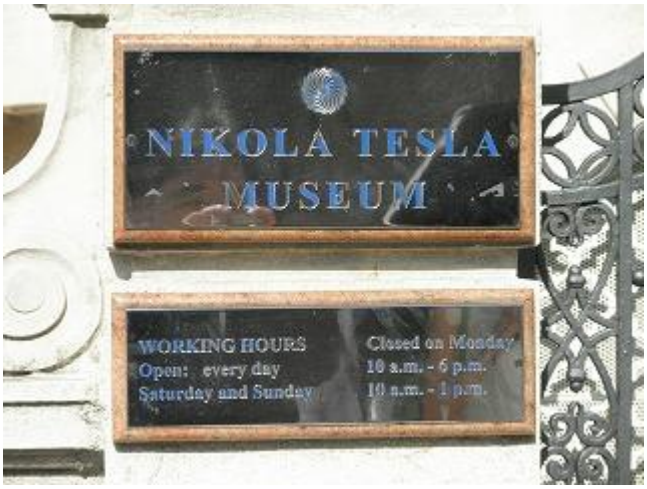
日本語学科の学生さんと一緒に

JICA バルカン事務所の黒澤所長によるブリーフィング

斎藤由美子さん（学習院大学法学部政治学科卒）による補足説明

ベオグラードで最高層の近代的な建物の中にある JICA バルカン事務所にて所員の皆様と一緒に

「空爆通り」にてトマホークによって爆撃されたまま残されているビル



交流電流や無線送電システムなどを発明したニコラ・テスラの博物館

ティトー元大統領が乗った車なども展示されている自動車博物館

「日本への期待」と記された馬の像

ドナウ川に注ぎ込む手前のサヴァ川の水上レストラン

日本大使館や JICA の皆様との夕食会

途中で Happy Birthday の音楽が流れ始めて…

20 歳を迎えた 2 年生の前にケーキが運ばれ、皆でお祝い

9/2　聖サヴァ大聖堂参観

ベオグラード市内の「ボシュコ・ブハ」小学校にて

日本が寄贈した机

校長先生によるお話

引き続き阿部書記官によるブリーフィング

知的障害を持つ子供たち

図工室に展示されている子供たちの作品

子供たちの作品をプレゼントされる

日本の支援によるアイロンや洗濯機

ミシン

ベオグラード空港にて、マケドニアとセルビアですっかりお世話になったミランさんとの涙のお別れ

ウィーンで乗り換えていよいよキシナウ（モルドヴァ共和国の首都）へ

教員関係者用の寮に 4 人ずつ宿泊

5 階建ての寮

舗装されている場所が少ないモルドヴァで建物の前によく見られるラザトアレ（「泥落とし」）

独立 20 周年を掲げた看板が散見される

20 世紀初頭にロシア人によって建てられた民俗博物館

外国人は入館料が数倍高い

ロシア、ウクライナ、ルーマニアの通貨とも換金可能

経済大学。ここにも「20 年」という言葉が国旗の三色と共に掲げられている

カザネシュティ村の小学校

美しい民族衣装を着たデイケアセンターの子供たちが花と共に待っていてくれる

大きなパンをちぎって塩をつけて食べる

小学校の一部だけは水道が通っており、タオルが配られ、子供たちと一緒に手を洗う

給食の時間。子供たちと一緒に昼食をとる

鶏肉の入ったスープとナスのサラダやピーマンの昼食

発酵寸前の新鮮なぶどうジュース

広々とした食堂

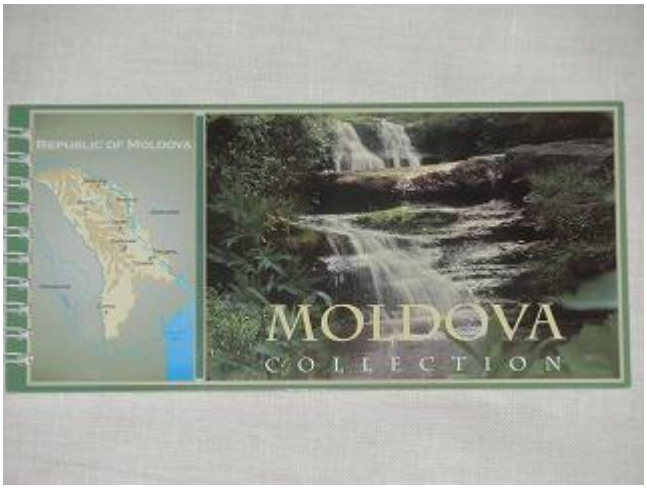
デイケアセンターの先生も一緒

子供たちのプレゼンテーション

モルドヴァの愛国的な詩を朗々と謳い上げる

思いがけずプレゼントをいただく

皆がほしかったマグネットと素敵な絵葉書で大喜び



隣の教室に移動

一人ずつひらがなで名前を書く

クロアチアと同じように震災の様子を今度はルーマニア語で紹介

1 月の紹介

2 月の紹介

3 月の紹介

4 月の紹介

5 月の紹介

6 月の紹介

7 月に続いて 8 月の紹介

9 月の紹介

10 月の紹介

11 月に続いて 12 月の紹介

「上を向いて歩こう」の歌の紹介

セーラー服の紹介

「上を向いて歩こう」を今度は日本語版で斉唱。歌詞も子供たちに配布する

剣道の紹介

瞬く間に仲良くなって

剣道の型の披露

一部の保護者も見に来ている

デイケアセンターの前で集合写真

モルドヴァの農家の部屋。絨毯が壁に掛けられているのも特徴

この農家には 4 人がお世話になる

村の中では自動車よりも家畜とすれ違うことが多い

ほとんどの農家の中庭にはぶどうが沢山実っている

漬物にするピーマン

水道の代わりに給水タンクに貯まっている水で手を洗う

ニワトリ

トウモロコシ

トマト

夕方、ひよこを家の中に仕舞うのを手伝う

ウサギ

きれいに並ぶニワトリ

自家製のジュースとパイ

9/4　ヤギも見かける

えさをついばむニワトリ

ジャガイモの皮をむくお手伝い

アヒルのひなたち

子豚 2 頭

赤いバケツに水を貯めて手を洗う

ナス

トウモロコシ

赤く熟れ始めたピーマン

リンゴ

キャベツ

井戸

寄り添ってうずくまるひよこたち

中庭で朝食

皿洗いのお手伝い

漬物の瓶が無数に並んだ地下の貯蔵庫

リンゴ取り

再びセンターに戻ってマルマルモリモリを教える

チェスで男の子たちと遊んであげる

折り紙

折り紙で紙飛行機も

子供たちの作品

箸の持ち方を練習する子供たち

うどんと麺つゆが配られる

恐る恐る食べ始める

うどんのお代りをする子供も

教室で子供たちの歌

お別れの前の集合写真

お別れ

街道沿いに山積みになって売られているスイカ

丘の洞窟に修道士が住んでいたオルヘイ・ヴェキ訪問

19～20 世紀の典型的な農家

丘の上の教会

ここにも「泥落とし」

数頭の牛とすれ違う

復興支援協会の関係者によるピアノ演奏を聴きながらの夕食

9/6　キシナウ市内で再び「独立 20 周年のモルドヴァ共和国」という看板を見かける。午後にウィーンへ

9/7　国連付近のドナウ川の本流の前で

ウィーン国際センター到着

日本でも 3 月以来すっかりおなじみとなった Y 字型の建物

ゲートは新装されていた

今年独立したばかりの南スーダンの旗が掲げられている

昨夏も案内して下さったトーマス・バイアーさん

日本の国旗を探して

宇宙関連の展示コーナー

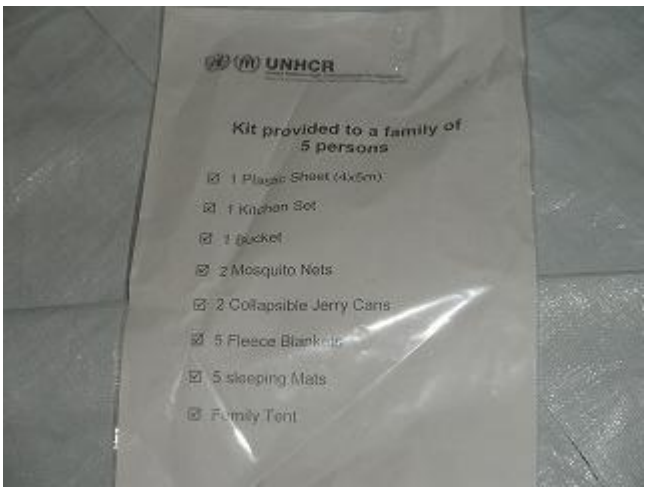
宇宙食のサンプル

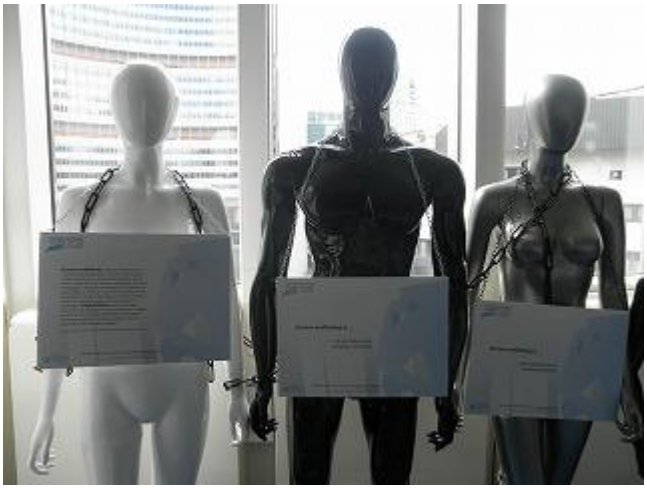
20 世紀後半以来の世界各国の核実験のモニターの前で

フンデルトヴァッサーの作品の説明

今年初めて UNHCR の展示コーナーが設置されている

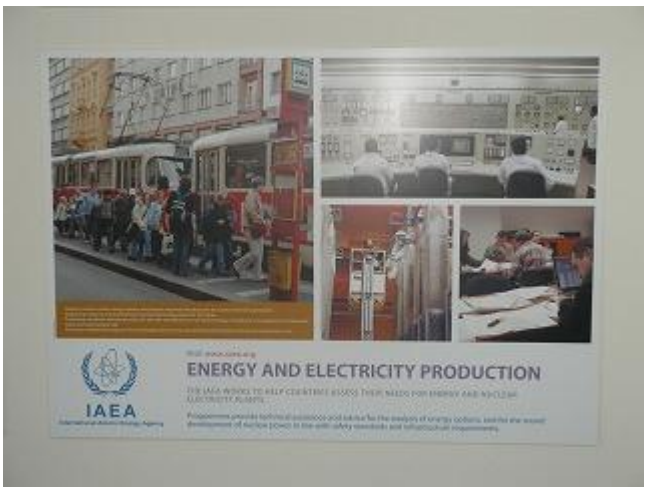
難民キャンプのテント





戦争に駆り立てられる子供たちや人身売買の展示も昨年度以前には見られなかったものの一つ

IAEA（国際原子力機関）に関する展示



ウィーン国際センターの建物の説明

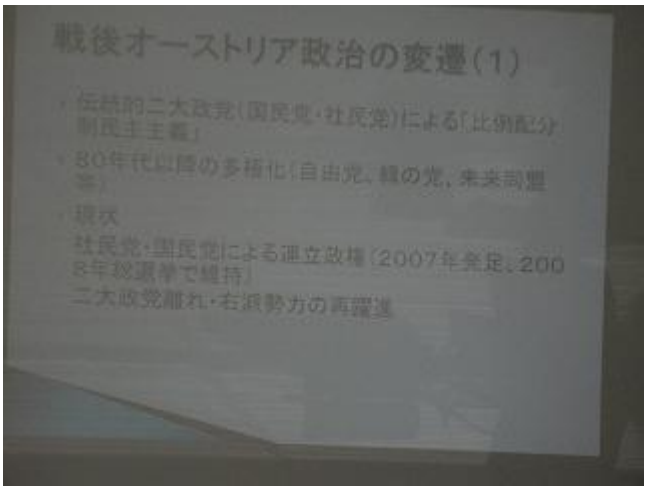
ウィーン国際センターの中庭にて記念写真

1～2 年生も積極的に質問

在オーストリア日本大使館の入り口

岩谷大使の執務室にて貴重なお話を拝聴し、熱心にメモを取る

引き続き会議室にて市原書記官によるオーストリアの歴史や政治・経済に関するブリーフィング



ブリーフィングの後の質疑応答

在オーストリア日本大使館の建物

オペラ座の横を通ってホテルへ

楽友協会の前で

ブラームス・ホールにて

9/8 世界遺産シェーンブルン宮殿にて

9/10 帰国する便の機内で誕生日を迎えた研修メンバー

成田空港にて。全員で無事、帰国し、研修は終了